

2 経管栄養関係の事例 ～注入順序について～

発生時の状況と経過

- ・腸ろうチューブの詰まりを取るため、普段から腸ろうでの栄養注入後に「ソリタ水 25ml」を注入していた。当日は、保護者からソリタ水注入後に「重曹水 25ml を注入する」という指示があることを看護師同士で確認した。
- ・栄養注入終了時、本生徒の担当ではない看護師がシリンジに重曹水 25ml を準備したが、担当看護師がソリタ水と思い込み、ソリタ水より先に重曹水を注入してしまった。

発生時の対応と処置

- ・すぐ母親に電話連絡をしたがつかず、折り返しの連絡で「注入は重曹水のみで良い」という指示があった。

考えられる原因や背景

- ・母親から普段と違う指示があったが、ケア実施時に看護師同士の確認を怠ってしまった。

再発防止に向けた対策・改善点

- ・保護者から普段と違う指示があるときは、用紙に記入して物品と一緒に置き、ケア実施時に看護師同士で声を掛けて確認していく。

ポイント！

- 看護師は当日担当する児童生徒を決めているので、なるべく担当児童生徒のケアを行うようにする。担当以外の児童生徒のケアを行う場合は、ケア実施前に看護師同士で当日のケア内容を必ず確認するようにする。
- シリンジは内容が分からないと事故につながるため、内容をシリンジに記入するようにしましょう。